

## 諸聖人

マタイ 5・1-12a

2015. 11. 1

イエズス会司祭 柴田 潔

### 「死者のためのミサ」

葬儀ミサで、私は3つのポイントからお話ししています。「ありがとう」「ごめんなさい」「助けてください」です。今日は、最近の体験を分かち合います。

私が住んでいる上石神井修道院には15名の会員がいますが、基本的には身の回りのことは自分でできる人たちです。通路の反対側には介護が必要な引退した神父さんが住むロヨラ・ハウスがあって、こちらは完全看護で15名くらいの方が暮らしています。

オーストラリアから帰ってから、入退院や検査のために神父さんを病院にお連れすることが何度かありました。特に、大木神父さんの検査の付き添いは私が専属のようになりました。大木神父さんは、大正15年生まれで、戦時中は上智の学生でしたが、海軍に入隊を志願して、人間魚雷・回天の特攻も志願しました。けれども、人間魚雷を作る部品がもう日本にはなくて、出撃が遅れるうちに終戦を迎えました。戦後、すぐにイエズス会に入り、栄光学園、広島学院の倫理の先生を10年以上した後、ネパールのポカラに宣教師として行きました。30年の宣教生活の間に、託児所、病院、学校などを設立しました。詳しくは『大木神父 奮戦記』（小学館スクエア、2011年）に書かれています。日本に引き上げてからは、佐賀の伊万里のトラピストでチャプレンをしていました。けれども、2ヶ月で10キロもやせてしまい、心配したシスターが「一度しっかり検査したほうがいい」と言われ、上石神井に来られました。大木神父さんは「自分がやせたのは、お医者さんからメタボに気をつけなさいと言われてダイエットしたからです。シスターは心配し過ぎ。貧血もダイエットの断食のせいです」とよく言っていました。修道院では、貧血の原因を調べて治療する方針だったので、私は検査入院の付き添いを何度かしましたが、原因がわかりません。そこで、紹介状を書いてもらった血液内科のある病院に検査のためにまた付き添いました。けれども、待ち時間がとても長くて、朝8時から夕方4時までかかることもあって、途中抜けて映画を観に行って回転寿司を食べたり、病因嫌いの大木神父さんが飽きないようにいろいろしました。血液検査では、貧血の原因が分からないので骨髓検査を受けることになりました。その日、大木神父さんは食欲がなくて何も食べてなかったのですが、「どうせ

また、2、3時間待たされるから、その間にチーズケーキでも食べましょう」と言って出かけました。けれども、その日は、すぐに検査が始まりました。ベッドに横になった神父さんは介護士に、「貧血の原因はダイエットです」と、いつものように持論を展開して、最後まで、「検査を受けたくない、不本意だ」と伝えていました。私は、「検査、受けたくないんだな。骨髄検査は痛いと聞いているし……。こんなときは、手巻き寿司のときに助けてもらったロザリオをしよう」と思い、神父さんに「控え室でロザリオしてますから頑張ってくださいね」と声をかけました。神父さんは「ありがとう」とにっこり笑ってくれました。ロザリオ2環祈って待って、検査が終わりました。疲れたようでしたが、大木神父さんは「看護師の方が『優しい息子さんが付き添ってくれて良かったですね』と言うから『違います。一緒に住んでるだけです』と答えた」と冗談まじりに話してくれました。その後、病院の喫茶店に行って、ココアとシフォンケーキ食べました。「ココアはおいしかったけど、ケーキは甘過ぎた」と半分を私にくれました。座って食べたのはこれが最後になってしまいました。骨髄検査を境に大木神父さんの体力は一気に落ちて、食欲もなくなり、寝たきりになってしまい、完全看護のロヨラ・ハウスの方に移りました。私は、「来週は一週間、山口に出張なので帰ってきたら借りてきた『永遠のゼロ』（零戦の映画）を一緒に観ましょうね」と声をかけました。

山口から戻って骨髄検査の結果を聞きに行きました。大木神父さんは行けませんでした。お医者さんは、「データはそんなに悪くない。白血病の手前（骨髄異形成症候群）です。急に寝たきりで動けなくなったのは解せない」と言われました。その日は訪問客があったので、翌日、容態が気になってお部屋をのぞきました。目が開いていたのでこの本をかざしましたが、反応がありません。私は「骨髄検査が良くなかったですね。検査受けたくなかったのに……。気持ちをくめなくてごめんなさい。また、ご自分でミサができますように」と祈って、席を外しました。それから、30分くらいして「大木神父さんが亡くなられた」と連絡がありました。あまりに急でした。すぐにお部屋に行って「あのとき、骨髄検査を受けてなかったら結果は変わっていたはず。本当にごめんなさい」と心の中で謝りました。その日は四ッ谷で、カウンセリングの講座があったので、待っている時間にゆるしの秘跡を受けました。「私は、大木神父さんの本当の家族にはなれなかった。体力を弱らせて、亡くなるのを早めてしまいました」と告白しました。続いてミサにも与りました。ミサは、イエスについて行きたいと思ってるけど、従いきれないから与るんだ。イエスにゆるされてまた歩みだせばいいんだ。受ける側になって、秘跡の意味がより深く分かりました。第1朗読（ローマ8・31b-39）にあった「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができるのか。死さえも神の愛からわたしたちを

引き離すことはできない」というパウロの言葉が心に染みしました。

3つのポイントの話に戻ります。大木神父さんはいつも「今日もたくさん時間使わせてしまって・・・何から何までありがとう」とお礼の言葉は欠かしていませんでした。短い間でしたが、私もたくさんものをいただきました。でも、私としては、「付き添って、時間も使ったけど・・・本当の気持ちをくめてなかった。申し訳なかった。ごめんなさい」という気持ちがどうしても強くあります。「ありがとう」と「ごめんなさい」、2つの言葉がかわるがわるよみがえってきます。もう1つの言葉は「助けてください」です。大木神父さんは「柴田さんは51歳なのになんかいつもはつらつとしている。被災地に連れて行ったりすごいなあと思う。でも、自分がネパールに行ったのも同じ51歳だった」と言っていました。大木神父さんは30年、ネパールで宣教師として働きました。私もなんとか30年、これから働きたい。これから苦しくなった時に「どうか、大木神父さん助けてください」とお願いするでしょう。

みなさんも、亡くなられた方に「ありがとう」「ごめんなさい」「助けてください」という思いでこのミサに与られていると思います。さまざまな思いを抱えているわたしたちも、今は天におられる故人も、神様のみ手の中にいる。そう信じて死者のためのミサを続けましょう。